友達との距離

恵庭中学校3年 小原 逞史

人と接する時は適切な「距離」が大切である。

私は二年生になり新しいクラスになった。新しい先生になり、知っている友達も少なかった。お互いの人柄を理解し、関係を深めていく時期がやってきたのだ。私は新しいクラスに馴染もうと意識はしたがやはり、昼休みは気心知れた友達と会話したり、他のクラスに遊びに行ったりしていた。

班活動や行事、集会などを経てクラスに慣れ始めた頃の出来事だった。その日の帰りの会は体育館に集まって二年生全体で行うことになった。その時の帰りの会で、ある先生が話を始めた。それは「体と心の成長と共に、異性との接し方も適切な距離をとろう」ということだった。

もう中学生なので、小学校の頃のような交流の仕方は考え直さなければならないのは分かるが、私には違う視点での疑問が生まれた。「異性」とかではなく、「友達」として距離を考えなければいけないのではないかと。

「友達との距離」には「丁度よい距離」があるのではないかと思う。「丁度よい距離」は人それぞれで、近くにいてくれて嬉しい人もいれば、少し距離を置いてくれた方が安心できる人もいると思う。

私は知らない人にも話しかけてしまう人。私はそれで友達ができただけで、知らない人に話しかけられたり近い距離に来られたりすると嫌だと思う人もいると思う。だから私は友達や友達になりたいと思っている人に話しかけるときは、そこを見分けることが大切だと思う。

私は小学校の頃、仲のよい友達がいた。登下校や放課後遊ぶときも一緒にいる仲だった。ある時、いつものように話しかけてくれたのだが、普段より距離が近く感じた。少し緊張したので友達に、

「少し離れてほしいかな。」

と言うと不機嫌になってしまった。その友達からしたらそれが丁度よい距離だったのだ。その日以来、その友達と丁度よい距離がつかめず、そのまま他人に戻ってしまったことがある。友達関係はとても繊細で、一度失った友達は前のように仲よくできなくなってしまう。また友達に戻れたとしても完全に傷が治ることはない。そのような出来事が起きないためにも「友達との距離」は大切にしてほしいのだ。

また私は社交ダンスを習っている。今は姉と組んでいる。社交ダンスは男子と女子でペアになるので「異性」と踊ることが多い。さらに表現として二人で近づいてアピールすることもある。そのため距離感が少し鈍くなってしまい、日常でも友達との距離感をうまく掴めず、

友達に迷惑をかけてしまうことも多くあり、本当に申し訳なく思っている。

こういう私のような出来事が起きないために、友達との「距離」を意識してほしい。

そしてこの先、進学や就職など、新しい環境で過ごす機会がでてくる。進学では新しい友達や先生、就職では先輩や上司の方など、より「距離」が大切になっていく。よりよい人間関係を築いていけるよう、相手のことを考え「丁度よい距離」を心がけたり、時には仲良くなるために、自分で「距離」を調節したりするなど、その場面・状況によって変える。その切り替えが必要になっていくと思う。

最後に、ここの話では「距離」という言葉が大切になっていたが、ただ距離を置くのではなく、気配りや思いやる心が大切なのだと思う。またお互いが「丁度よい距離」と思えるように心がけることも必要だと思う。私も友達との距離はうまくとれていないが、相手のことを考えて「距離」を意識して生活していきたい。